

平成 24 年度 第 1 回 行財政構造改革審議会 議事要旨

1 日 時

平成 24 年 7 月 27 日 (金) 15:15 ~ 17:00

2 場 所

兵庫県公館 第 1 会議室

3 出席者

(1) 委員

五百旗頭委員、井堂委員、稲垣委員、齋藤委員、田崎委員、藤浪委員 (6 名)

(2) 県

井戸知事、吉本副知事、杉本防災監、細川理事、中村理事、山本会計管理者、山内政策部長、荒木企画県民部長、太田健康福祉部長、山本福祉監、大久保政策労働局長、伊藤農政環境部長、築谷環境部長、濱田県土整備部長、松本まちづくり部長、高井公営企業管理者、前田病院事業管理者、大西教育長、青山人事委員長、倉田警察本部長 (20 名)

4 議題及び議事概要

(1) 会長選任等

委員の互選により、五百旗頭委員を会長に選任
五百旗頭会長の指名により、稲垣委員を会長代理に指名

(2) 第 2 次行財政構造改革推進方策について

(3) 地方行財政に関する国の政策動向について

(4) 21 世紀兵庫長期ビジョンについて

県当局から上記 (2) ~ (4) について説明。委員からの主な意見は次のとおり。

(21 世紀兵庫長期ビジョンについて)

- ・自立と連携が一番のキーワード。人としての尊厳を守るという考えのもとに、どんな小さなものにも自立をさせていく、お互いの自立を認めて社会を創っていくという姿勢が、ビジョンを成功に導くためには必要である。

(将来を見据えた施策展開について)

- ・結果的に自立を促すような本当に必要な援助の実施など、現在だけでなく、将来を見据えた施策の展開が必要である。
- ・施策を実行するのは人である。人が動く動機は使命感と誇りであり、このモチベーションが大事である。モチベーションを刺激する施策を実施することによって、ビジョンが持ち腐れとならないよう取り組んでいただきたい。
- ・国の借金が増えていく中、有事に備えて蓄えを貯めるなど、将来像を見据えて、真剣に今後の対応を考えていくべきである。

(超過課税について)

- ・子育て支援などの目的を持って徴収している超過課税について、事業の効果的な実施を図るとともに、その実施する施策の成果について、分かりやすい P R を心がけていただきたい。

(国の施策について)

- ・国がしっかりとした将来のプランニングを作り、進むべき方向性を定める必要がある。その中で地方が国の施策をシビアにチェックするといった役割をもっと担っていき、地方から国を動かしていくぐらいの力が必要である。

(関西広域連合について)

- ・関西広域連合に対する期待は高まっており、今後はこれからの地方の時代を背負う機構となっていくと考えているが、意思決定過程や仕組みが県民に分かりにくい。役割や機能、必要性を、県民が理解できるような方策を講じていただきたい。

(公社について)

- ・第一線で県政推進の一翼を担っている公社関係団体等の役割は大きい。このような中で、公社等の定員削減が進むなか、公社等職員の志気を高揚し、組織を活性化することは重要である。このため、県本庁職員との人事交流や公社間の人事交流など、公社等職員が県政に対する理解を深める仕組みなどを考える必要がある。

(防災について)

- ・兵庫の安全・安心を重要な柱とする県政としては、防災の基礎的行政組織としての市町の防災機能・能力の充実が必要である。このため、市町職員の人材育成支援など市町の防災力強化支援に力を入れていただきたい。

(交流人口について)

- ・交流人口を増やすことを先導的にやってきた兵庫県であるが、この人口減少時代には、具体的展望をもって、今まで以上に力を入れて取り組まなければならない。